

子育ての不安を少しでも軽くしたい

札幌市 NPO 法人北海道子育て支援ワーカーズ

「地域の子供の健やかな成長のために、みんなのじいじになりませんか？」

こうしたキャッチフレーズの講座が、NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ（以下、ワーカーズ）主催で2015年から毎年行われている。対象は60歳以上の男性、子育てから一番縁遠い層であるが、それゆえに一番関心を持ってもらいたい層とも言える。

講座名は「60歳からはじめる じいじのあそびボランティア講座 2018」。全5回で、1回目から3回目に、子供と遊ぶ方法や理論、具体的な遊び方などを学ぶ。4回目には体験実習があり、実際に子育て広場の現場に出向いて子供たちと遊ぶ。最終回には、グループワークを実施、実習に参加した感想や、今後の活動などについて話し合い、修了証が渡されるといったプログラムになっている。

平成30年度は、9月から10月にかけて札幌市内の豊水会館で開講、60代から70代の男性5人が受講。10月31日には最終回が行われた。

この講座に参加した志和英世さん(67)は、「小さい子供と接するには、まず笑顔なんです。それがよく分かりました」と話す。志和さんは、厚別区で地域の子どもたちに絵本の読み聞かせや紙芝居などを見せるボランティア活動を行っているという。今回、小学生

だけでなく幼児への接し方を学びたくて講座に申し込んだとのこと。

伊藤清光さん(70)は、「子育てについて考えるきっかけになったし、孫育てを手伝ってもいいかも」という。講座参加の動機については、「娘が、ワーカーズの活動に参加しており、参加してみてはと勧められたから」と語っていた。



「じいじのあそびボランティア講座 2018」、講師の小川さんは、「子供と接するには、焦ってはダメ」と説明する

講師を務めた小川京子さんは、ワーカーズの元代表理事(3代目)。もともとは幼稚園で勤めていたが、いろいろと疑問を感じるようになって、子育て支援の活動に携わったという。「子供と接するには、焦ってはダメ。相手が興味を持って近づいてくるまで待たないといけません。自然に子供が寄ってくるように、まず自分が楽しむことが大切です」と、強調していた。

■ ワーカーズの活動について

子育て支援活動を行っているワーカーズは、子育てをしている人たちが抱える不安や悩みを解決するため、2002年に設立された。各地区でそれぞれ活動していた子育て支援の4団体が統合してNPO法人格を取得、子育てしやすい社会を目指すことを活動趣旨とした。

現在は10団体167人で構成され、賛助会員は、個人一口2千円、団体5千円。「親を支える」、「遊びを伝える」、「子育て、子育て支援を学ぶ」といった3つの活動方針を掲げている。収益事業としては、集団保育や講師派遣、おもちゃイベントなどのほか、自治体や医療機関からの委託事業（保育、生活支援、スタッフ研修）を行っており、2016年度の会計報告では事業規模が約4千万円となっている。

現在5代目の代表理事を務める豊田直美さん(61)は、活動の核となっているのが、「とんとんひろば」への支援だという。「とんとんひろば」とは、ワーカーズの構成団体がそれぞれ行っている「親子のため交流スペース」で、いわば「親を支える」ための活動である。「お昼ご飯を食べて、親子でゆっくりできる場所があったらいいなあ」という母親たちの願いから2002年から始められ、親子の出会いの場として、仲間作りの場として、相談で

きる場として地域に広がっていった。

現在(2018年10月)では、札幌市内だけでなく、北広島市、江別市、石狩市などを含め合計15カ所で「とんとんひろば」が設けられている。それぞれ、開催日時は異なっているが、週1~6回、10時~15時に行われている。利用料は無料、またはドリンク代200~300円ほどとなっている。

「家庭から一歩外に出て広場に参加することで、親の閉塞感や不安を軽減、親子での気分転換や交流ができる場になっています。足を運んでくれた全ての人が、心地よいと思える居場所にしたいと思っています」と、豊田さんは話していた。



高瀬事務局長(左)と、豊田理事長(右)。子育ての不安を少しでも軽くしてあげたい

また、メイン事業の一つとして「とんとん図書館」の開設も挙げている。市内4カ所(北区、手稲区、豊平区、白石区)の店舗や自宅を利用して、「とんとん図書館」を開設。絵本

や遊びの本、子育てに関する書籍など、約1500冊を無料で貸し出している。交流のためのスペースとしても利用できるほか、子育て支援について気軽に学べる場にもなっているという。

■ おもちゃフォーラムの開催

ワーカーズでは「遊びを伝える」という活動方針のもと、様々なおもちゃを揃えて、子供たちを楽しませる「おもちゃフォーラム」というイベントを行っている。

事務局長の高瀬敦子（52）さんによれば、「この街で子育てできてよかった」と実感できる地域社会をつくりたいと、2002年から始めたという。毎年、札幌市内や近郊都市などで「おもちゃフォーラム」を開催、総来場者数は1千人を超えており、今年度も8会場（札幌市内、江別市、北広島市、石狩市）で行われた。会場には、木の砂場や、積木、幼児も楽しめるおもちゃ、絵本などが用意されたほか、参加者全員で「わらべうた」を歌う時間もあった。「たくさんの親子の方々が楽しく過ごしてもらえるように、木のおもちゃに触れて心地よいと感じてもらえるよう、そんな思いで開催を続けています」と、高瀬さん。

また、「子育て、子育て支援を学ぶ」という活動方針では、子育てを応援する人のための講座や、研修会なども毎年定期的に行ってい

る。



2018年6月22日、手稲区で開催された「おもちゃフォーラム」、保護者やスタッフのほか、実習の大学生も手伝っている

■ 人との繋がりの中で、 子育てをしてもらいたい

ワーカーズの代表理事を務めている豊田さんは、3人の子供を育てたときの経験を活かせればと、ワーカーズの活動に関わるようになったという。

「自分が役に立つことは何だろうと考えていたとき、子育て支援のNPOに出合ったのです。マザーテレサの『愛の反対は憎しみではなく無関心である』との言葉から力をもらいました」

豊田さんは、そう話してくれた。

事務局長の高瀬さんは、結婚後、東京に移り住むことになり、両親や知り合いもない土地で、子育てをするのが不安だったという。そのとき、近所や社宅の人たちに、ずいぶんと子育てを助けてもらったため、札幌に帰ってからはその恩返しをしたいと、この活動を始めたという。

「人との繋がりの中で子育てができ、地域が子育てを支えられるような社会になれば良いですね」と力強く語っていた。

■ 連絡先

〒063-0801
札幌市西区二十四軒 1 条 4 丁目 6-3
二十四軒ターミナルビル 2 階

NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ
代表 豊田 直美（とよだ なおみ）

TEL : 011-632-5180
FAX : 011-632-5181
Email : kosodate@proof.ocn.ne.jp
URL : <http://kosodate.i-cis.com/>